

带状角膜変性に対する 0.05M EDTA-Na を用いた塗布療法を受けられる方へ

1. 現在の診断名・症状

診断名 带状角膜変性症

症状 角膜混濁に伴う視力の低下

2. 表層角膜切除術の目的

角膜の混濁部を除去する事で角膜の透明性を改善する事

3. 表層角膜切除術の方法

麻酔方法：点眼麻酔

処置ベッド上で点眼麻酔・消毒を行ってから治療を開始します。治療は 15 分程度で、処置中の痛みはほとんどありません。

带状角膜変性症ではカルシウムが角膜に沈着して混濁を起こすため、効果的に混濁を除去するためにカルシウムを溶かす EDTA という薬剤を使用します。

混濁部の角膜上皮を剥離し、EDTA 溶液を含ませた綿棒で混濁部をこすります。

数分間十分に EDTA 溶液を作用させた後に角膜表面を十分に洗浄し、場合により治療用のコンタクトレンズを乗せて処置終了です。

処置後は角膜表面の傷が治るまで数日間～1 週間程度、ゴロゴロとした痛み・異物感があります。また、治療後 1～2 週間程度は抗生剤及び抗炎症の点眼を使用します。

治療の約 1 週間後に外来にて角膜表面の状態を確認します。

4. 期待される効果

混濁の除去により角膜の透明性が改善され、視力の向上が期待できます。

また、白内障手術等の内眼手術前に行う事で手術のリスクを減らす事ができます。

5. 予測される合併症と危険性、その治療

- 角膜びらん 角膜の上皮がめくれてしまった状態です。処置後は必発ですが、数日～1 週間程度で治癒する事がほとんどです。糖尿病等の合併症がある場合には、治るのに時間がかかる場合があります。
- 感染性角膜潰瘍 稀ですが、上記の角膜びらんに何らかの原因で感染がおこると感染性角膜潰瘍となります。治療には抗生剤の点滴・内服・点眼が必要ですが、治っても潰瘍部に混濁を残す事があります。また、放置すると最悪は角膜に穴が開いて失明する恐れもあります。そのため、処置後は術眼をこすらない事・点眼をする際はよく手を洗う事に気を付けてください。
- 角膜乱視 混濁した部分の角膜を除去するため、角膜の形が変わり乱視の度数が変化する事があります。そのため、処置後に改めて眼鏡合わせが必要になることがあります。
- 混濁の再発 どのような方法で角膜混濁をとっても、混濁が再発する可能性があります。再発した場合はまた処置を行うかご相談になりますが、施行できる回数に

は限界があります。

6. 実施しない場合に予測される症状の推移

実施しない場合には混濁はそのままか、少しずつ悪化していく事が多いです。

7. 代替的治療法について

レーザーによる表層角膜切除術がありますが、実施できる施設は限られます。レーザー後は遠視化が問題となります。また、周辺部の混濁は除去できないため、用手的に切除する事が必要となります。

8. 治療の同意を撤回する場合

一度同意書を提出しても、治療が開始されるまではいつでも本治療を受ける事を取りやめる事ができます。中止をご希望の際には、その旨を下記までご連絡ください。

連絡先

北海道帯広市西 14 条南 10 丁目 1 番地

JA 北海道厚生連 帯広厚生病院

電話：0155-65-0101（代表番号）

おかけの際には眼科外来に繋ぐようにお伝えください